

令和7年度
登別市中学生
台湾派遣交流事業
研修報告書



目次

登別市中学生台湾派遣交流事業の概要	1
・事業概要	
・研修日程表	
・派遣生徒・引率者名簿	
・派遣日程表	
感想文	6
研修テーマ	19
アイヌとタイヤルの文化の違いについて	
登別市立登別中学校	2年 國京心結
タイヤル族とアイヌ民族と世界の食文化を比較してみる	
登別市立緑陽中学校	2年 古本仁
台湾の自然と音楽について	
登別市立緑陽中学校	3年 源波虹美
タイヤル族の料理とアイヌ料理との比較	
北海道登別明日中等教育学校	1回生 塩崎駿祐
アイヌ民族とタイヤル族の暮らしの違いについて	
北海道登別明日中等教育学校	1回生 白崎ひなた
タイヤル族の日常生活について	
北海道登別明日中等教育学校	3回生 三條結花
引率者報告書	95
引率者：登別市教育部学校教育グループ 総括主幹	更科 互輝
登別市総務部企画調整グループ 担当員	黒井 嵐史
添乗員報告書	

事業概要



2026.01.04 新千歳空港にて

○ 事業概要

1 目的

海外の先住民の歴史や文化、取組についての理解を深めることにより、アイヌ文化の継承や多文化共生社会づくり等を担う人材を育成する。

2 訪問都市

中華民国（台湾）

3 派遣期間

令和8年1月4日（日）～9日（金）：5泊6日

4 交流内容

先住民族訪問：樂水部落

学校訪問：台北市立懷生国民中学

施設見学：故宮博物院、順益原住民博物館、中正紀念堂、忠烈祠、龍山寺等

5 研修内容

(1)オリエンテーション：令和7年11月17日（月）

(2)事前研修：令和7年12月2日（火）～12月16日（火）計3回
アイヌ文化講座、台湾の歴史・文化講座、中国語会話、
アイヌ文化の紹介練習・ムックリの練習、アイヌ紋様の切り絵制作

(3)事後研修：令和8年1月14日（水）～1月28日（水）計5回
研修成果まとめ、感想文提出、学習発表会準備

(4)学習発表会：令和8年1月30日（金）

○ 研修日程

月 日	内 容		会 場	時 間
11月17日(月)	オリエンテーション	顔合わせ・自己紹介 台湾の概要説明 研修テーマ決定等	市役所/第2委員会室	16:30~18:00
11月21日(金)	保護者説明会		市役所/第2委員会室	18:00~19:30
12月 2日(火)	事前研修	アイヌ文化講座	市民会館/視聴覚室	16:30~18:00
12月 8日(月)	事前研修	アイヌ文化講座	市民会館/小会議室	16:30~18:00
12月16日(火)	事前研修	アイヌの文化を学ぼう 台湾の文化を学ぼう	市民会館/視聴覚室	16:30~18:00
12月22日(月)	市長等へ出発挨拶(派遣者)		市役所/応接室	16:00~16:30
12月22日(月)	オリエンテーション		市役所/第2委員会室	16:30~18:00
12月26日(金)	事前研修(予備日)		市役所/第2委員会室	16:30~18:00
1月4日(日)	台湾へ出発 (新千歳空港集合時間)		市役所/裏駐車場	8:00 (10:00)
1月9日(金)	台湾から帰国 (登別市役所到着時間)		市役所/裏駐車場	15:00 (17:30)
1月14日(水)	事後研修	スライド作成	市民会館/小会議室	16:30~18:00
1月16日(金)	市長へ帰国挨拶(派遣者)		市役所/市長応接室	16:30~17:00
1月19日(月)	事後研修	スライド作成	市民会館/視聴覚室	16:30~18:00
1月21日(水)	事後研修	感想文作成・学習発表会準備	市民会館/視聴覚室	16:30~18:00
1月26日(月)	事後研修	学習発表会準備・リハーサル	市民会館/視聴覚室	16:30~18:00
1月28日(水)	事後研修(予備日)	学習発表会準備	市民会館/視聴覚室	16:30~18:00
1月30日(金)	学習発表会		市民会館/大会議室	18:00~19:30

○ 派遣生徒・引率者名簿

学 校 名	学 年	生 徒 名
登別市立登別中学校	2年1組	國京 心結
登別市立緑陽中学校	2年A組	古本 仁
登別市立緑陽中学校	3年C組	源波 虹美
北海道登別明日中等教育学校	1回生B組	塩崎 駿祐
北海道登別明日中等教育学校	1回生B組	白崎ひなた
北海道登別明日中等教育学校	3回生B組	三條 結花

引率者	登別市 教育部 学校教育グループ 総括主幹	更科 互輝
	登別市 総務部 企画調整グループ 担当員	黒井 嵐史

○ 派遣日程表

旅行期間 2026年 1月4日(日)～ 2026年 1月9日(金)

日次	月日(曜)	地名	現地時間	交通機関	行程	食事
1	1/4 (日)	エバー航空 新千歳空港 桃園空港	10:00 12:10 16:05 17:30 18:30 19:30 20:00	BR165 便 専用バス ↓	新千歳空港集合 新千歳空港発 桃園空港着 入国手続き後、ガイドとミートし、台北市内へ 夕食レストラン ホテル着 <台北泊>	朝：－ 昼：各 自 夕：レストラン
2	1/5 (月)	台北 楽水	08:00 17:00	専用バス ↓	ホテル発 【タイヤル族の集落「楽水部落」体験プログラム①】 多文化共生事業・文化交流 10:00～16:00 民泊先到着 <民泊>	朝：ホテル 昼：体験内 夕：民泊
3	1/6 (火)	台北	15:00	専用バス ↓	ホテル発 【タイヤル族の集落「楽水部落」体験プログラム②】 多文化共生事業・文化交流 ホテル着 <台北泊>	朝：民泊 昼：体験内 夕：レストラン
4	1/7 (水)	台北	08:00 20:00		ホテル発 【終日学校交流】 ※現地校生と学校で昼食 ホテル着 <台北泊>	朝：ホテル 昼：各 自 夕：レストラン
5	1/8 (木)	台北		各自 公共交通機関	原住民文化主題公園 故宮博物院 <台北泊>	朝：ホテル 昼：レストラン 夕：レストラン
6	1/9 (金)	桃園空港着 エバー航空 新千歳空港	07:10 08:10 10:10 15:00	専用バス BR116 便	ホテル発 直行便にて新千歳空港へ 新千歳空港着、解散	朝：朝食BOX 昼：機内食 夕：－

時差 台湾 日本のマイナス1時間

感想文



九份にて

台湾で感じた楽しさと成長

登別市立登別中学校 2年 國京 心結

私は、台湾派遣交流事業を通じて、多くの楽しさと自分自身の成長を感じることができました。今回が初めての海外だったため、出発前はとても緊張していました。特に、言葉が通じない状態でのコミュニケーションの取り方や、空港での手続きがきちんとできるかなど、不安な気持ちでいっぱいでした。しかし、実際に台湾に行ってみると、不安は少しずつ小さくなり、毎日が新しい発見と楽しい経験でいっぱいでした。

特に印象に残っているのは、現地の方々や学生との交流です。最初は言葉が通じず戸惑うこともありましたが、表情やジェスチャー、簡単な英語を使って一生懸命伝えようとする、相手も同じように伝えようとしてくれました。そのやりとりの中で、言葉が通じなくても、伝えようとする気持ちがあれば心は通じ合えるのだなと実感しました。また、学校交流では、案内してくれた現地の生徒がとても優しく、ゆっくり説明してくれたり、困っていないか気にかけてくれたりしました。また、他の生徒たちもフレンドリーに話しかけてくれて、日本から来た私達を歓迎してくれていることが伝わり、とても嬉しかったです。校内の雰囲気や授業の様子など、日本の学校とは違う点も多く、見ていてとても新鮮でした。



また、台湾で食べた食事もお忘れられない思い出です。お店や市場で食べた、本場の小籠包や魯肉飯はとてもおいしく、日本では余り食べる機会のない料理も味わうことができました。さらに、宿泊先では一緒に参加したメンバーと夜に同じ部屋に集まり、ゲームをして過ごした時間もとても楽しかったです。みんなで過ごした時間は、仲間との距離を一気に縮めてくれました。

また、今回の派遣では、普段の学校生活では経験できない多くの出会いがありました。一緒に参加したメンバーとも、最初はあまり話したことがありませんでしたが、数日間を一緒に過ごす中で自然と会話が増え、帰る頃には仲良くなることができました。このような貴重な経験ができたのは、送り出してくれた家族や支えてくれた方々のおかげだとおもい、感謝の気持ちを強く感じました。

この交流を通じて、私は「自分から行動することの大切さ」を学びました。最初は、言葉が通じないかも知れないという不安から、自分から話しかけることを少しためらうこともありましたが、いざ声をかけてみると相手も笑顔で応えてくれ、少しずつ会話が楽しめるようになりました。この経験から、完璧にできなくても、まず行動してみることが大切だと感じました。そして、わからないことがあっても、まずは挑戦してみること、人と関わることを大切にしたいと思うようになりました。この経験は、これから先もきっと私の大きな力になると思います。台湾での経験をこれからの生活にも活かし、様々な人と関わりながら、さまざまなことに積極的に挑戦していきたいです。



タイヤルとアイヌと世界の食文化を比較しよう

登別市立緑陽中学校 2年 古本 仁

僕は台湾に行ってきました。僕は一回海外に行っていたのでそこまで怖いという印象を強く抱いていなかったのですがハードルが低く感じてあまり不安を感じることなく台湾を楽しめました。台湾研修に行く前はさっきも話しましたが一度海外に入っているのですぐですが台湾の人は少し怖い印象がありました。台湾に行ったあとの台湾の印象は台湾で体験したことのあとに発表します。

まず、タイヤル族を訪問しました。僕は最初は部族だから話が通じにくくて狩りをして生きている部族だと最初は思っていました。でも今ならとても優しく丁寧な教えてくれるととてもいい方だと思います。まずタイヤル族とは台湾の中でも2番目に多い8万人で構成された部族で台湾の中部から北部まで広がっています。そんな巨大な部族も台湾の人口が約2300万人程度なのでわずか0.4%しかいません。そしてタイヤル族の名前には最初に自分の名前を入れて自分の名前の後に父親の名前を入れるという付け方でした。それでタイヤル族を案内してくれた方の名前にタケルというお父さんの名前がありました。台湾が前は日本領だったことが関係しているのでしょうか、それにしてもタイヤルとは関係ないですが歴史を感じることができました。そして原住民博物館に行って来てタイヤル族のことをさらに現地で学んだりしました。変わりますがタイヤル族で体験したのは弓矢体験や餅つきがありました。弓矢体験は自分から積極的になって取り組みました。かなりの高難易度でした。

殆どは的に当たらず当たってもほとんど外側でした。餅つきではきな粉を付けてもちを食べました。

話題は変わりますが台湾の中学校を訪問してきました。

台湾の中学校は日本とは全然違うなと思いました。日本が協調性や思いやりを重んじるなら台湾は自由を重んじると自分は考えています。まず中学校で家庭科の授業と台湾語の授業を受けました。まず、家庭科の授業ではお菓子の袋にある成分表からどんな成分があるかの授業をしていました。台湾語の授業では擬音語を学習しました擬音語とはブレーキの音とか猫の鳴き声をなんというかを授業でしていました。それで台湾の中学校で一番驚いたのは

授業終わりでスマホ使ってお菓子を食べ始めていました。そこが日本とはかなり違うなと思いました。日本でもお菓子を食べてもいい学校はあるけど自分の学校はお菓子が禁止だからそう思いました。あと頑張って日本語で話しかけてくれた生徒や頑張って英語で通じようとしている生徒などがいました。それに応えるために自分も頑張って英語を使いました。そして台湾の学校の給食はちょっと冷えていて少し自分の口にはあいませんでした。アイヌ民族とは狩りは共通していて食は違って世界とは若干食は似ていますが全体的に似ていませんでした。

台湾に行った全体的な感想は、日本と台湾の大切にしているところが違うところと日本と台湾の歴史を実際に現地で学ぶことができ嬉しかったです。

台湾派遣交流を通して

登別市立緑陽中学校 3年 源波 虹美

私は台湾派遣交流を通して、学んだことや感じたことが3つあります。

まず台湾と日本の大きな違いは時差があることで、日本のほうが1時間早く進んでいます。初めて海外に行って初めて時差を肌身で感じてきました。台湾に滞在中、空き時間などに友達とメッセージで連絡する際に日本にいる友達は1時間時間が進んでいて同じ世界にいるのに少しだけ生きている時間が違うだけで不思議な気持ちになりました。

次に言語についてです。私は元々海外に興味があり、小さい頃から英語も習っています。高校生になるまでに1度は本場の海外の地に行って英語などの言語に触れてみたいという思いでこの派遣に応募しました。派遣の際に現地の学校に行くという体験がありました。そちらの学校はバイリンガル教育をされていて英語、日本語、中国語、台湾語を学ばれています。英語で話しかけられたことは嬉しかったし、もっと言語について学びたいと思いました。私もまだ英語が未熟なところがあるので長く話されたら理解できなくて言語の壁を痛感しました。台湾から帰ってきて英語だけでなく、中国語にも挑戦し語学力を高めたいと思いました。

そして3つ目は派遣メンバーと仲を深められたことです。最初はお互いに緊張していて少ししか会話できずあまり話せませんでした。その後当日、私は約1週間みんなと仲良くやっていけるか不安でした。そんな不安がありながらも当日たくさん話しかけてお互いに日に日に打ち明けて夜にみんなが集まってカードゲームをしたり、お話をして仲良くなれました。活動を通して会話が増え、自然とお互いにふざけ合えるほどになって思い出に残る楽しい派遣になりました。

最後に私はこの派遣を通してもっと国際力を高めていきたいと思ったし、色々な言語に触れて世界を広げてみたいと思いました。

また、この派遣を通して積極性を学べたし、人と関わる大切さを学べました。台湾に行ったことによってもっと色々な国に行ってその国々の良さを見つきたいなと改めて思いました。台湾の良さは親日国であり、日本の

ものが大好きで人が優しいところです。私達が日本人だと気づいた台湾の方が明るく笑顔で手を降ってくれたり、頑張って日本語を話してくれたり台湾はとても温かい国だと感じました。この経験を生かしながらこれからたくさんの方に挑戦していきたいです。

楽しかった台湾研修

登別明日中等教育学校 1 回生 塩崎 駿祐

僕は1月4日から1月9日にかけて台湾研修に行ってきました。僕の台湾のイメージは同じアジアの国で北海道より暖かそうで、そして僕は生まれて初めての海外旅行となるので今回の研修に参加することができとてもうれしかったです。

台湾研修に行く前の事前研修で、一緒に行くメンバーと顔合わせしました。最初は結構緊張してうまく話すことができなかったけれど本研修までに少し話せるようになりました。事前研修ではムックリの練習をしました。ムックリは音を出すのが結構難しくてうまく鳴らせませんでした。でも少し練習していくにつれ、ちょっとずつ音が出るようになりました。その他に台湾でも通じる中国語で自己紹介の練習もしましたが自分の名前を覚えることができませんでした。

1日目には北海道を台湾に向けて出発しました。僕は初めての国際線なのでとてもわくわくしていました。そしてすべて手続きを終わらせ飛行機に乗りました。飛行機はとても広く座りやすかったです。その飛行機では機内食も出ました。メニューはハンバーグのほかに麺料理がありました。僕はハンバーグを選びました。ハンバーグは柔らかくてとてもおいしかったです。そして台湾に付いたら入国審査がありました。そこで僕はちゃんと入国できるか心配でしたが、ちゃんと入国することができました。この日はあまりプログラムがなかったので、そのまま夜ご飯を食べに行きました。夜ご飯は火鍋というしゃぶしゃぶのようなものを食べました。火鍋は味がついていないので自分でたれをつけて食べました。火鍋には、「火」という字が入っているので辛そうだなというイメージがあったのですが、あまり辛くなく味がちょっと濃いめでした。

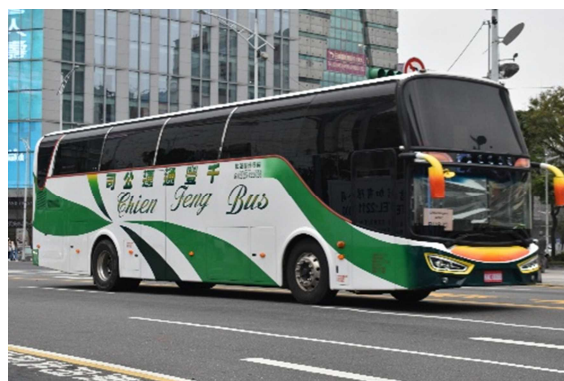
2日目はタイヤル族と交流をしました。そこで僕はタイヤル族の民族衣装の体験をしました。タイヤル族の衣装は紐を肩から下げて使いました。そしてタイヤル族のご飯も食べました。タイヤル族のご飯は揚げ物やスープなどがありどれもすべておいしかったです。おやつには皆でついた餅を、ピーナッツを砕いた粉につけて食べました。

3日目はタイヤル族との最後の交流日でした。その日はタイヤル族の話を聞いたり学校にも行ったりしました。学校は幼稚園と同じ場所にありました。そしてタイヤル族との交流が終わった後に九份に行きました。九份

には階段がたくさんあり上るのが大変でした。僕はそこでパイナップルケーキという台湾で有名なお土産を買いました。

4日目は台湾の中学校と交流しました。台湾の中学校はとても広く大きかったです。僕はそこで英語と数学の授業を受けました。英語は単語などがわかるのでちょっとわかったのですが、数学は話していてよくわからなかったけど、ペアを組んだ台湾の中学生が日本語に翻訳をしてくれて数学もしっかり受けることができました。給食もいただきました。お米とお肉が出ました。日本と違って、食べたい分を取ることができました。そしてこの日の午後は西門町という場所に行き自由散策をしました。そこにはいろいろなお店がありました。僕はそこでキーホルダーを買いました。そのあと僕は時間が余ったので台湾のバスを撮りました。

5日目は博物館に行きました。そこはすごく広くいろいろな年代のものが置いてありどれもすごく年季が入っていてとてもボロボロでした。そしてその博物館には象牙の作品があり、それは象牙を削って球体にして中もくりぬいて動くようになっています。そこに人がすごくいました。その博物館でボールペンを買いました。それはとても持ちやすく書きやすく、いまでもお気に入りのボールペンです。



6日目はとうとう帰国する日となりました。朝早くに起きて空港に

向かい出国の手続きをして飛行機に乗り込みました。日本までの4時間半のフライトはとても短く感じました。



そこで僕はとてもおいしいお菓子を買いました。それは小泡芙といいます。それはシュークリームのような生地の中にチョコが入っているお菓子です。それを友達にあげたらとても喜んでくれました。

台湾で楽しかったこと

登別明日中等教育学校 1 回生 白崎 ひなた

私は、登別市中学生台湾派遣交流事業という貴重な機会を頂き、台湾にいかせてもらいました。

1 日目、新千歳空港で 6 人全員と引率の更科さん、黒井さん、添乗員の上田さんと集まり、無事台湾の桃園空港へ出発しました。桃園到着後、6 日間お世話になる通訳兼ガイドの許(きょ)さんと合流し、台北市内まで移動しました。1 日目は火鍋を食べました。火鍋といっても、辛いものではなく、鍋のようなものでした。

2 日目、1 時間半ほどバスに乗ってタイヤル族の方々が住んでいる集落の方に移動しました。その日はタイヤル族の方に歓迎の歌を披露してもらったり、竹筒ご飯というものを作ったり、顔にタトゥーシールをつけて民族衣装を着させてもらったりしました。タイヤル族の方にお昼ご飯を食べさせてもらったりして、タイヤル族との交流ができた 1 日でした。

3 日目、またタイヤル族の方々と交流しました。この日は集落の近くを散歩して歴史を聞いたり、アイヌのムックリを見せて、タイヤルの楽器を見せてもらったりしました。実際にみんなでムックリを演奏してみせたあと、ムックリをプレゼントしたりとても距離が縮まりました。その後、台北市内に戻り九份に行きました。その日は雨が降っていて、普段は 17 時からちょうどちんが光るはずですが、早めの 16 時から光っていてきれいな風景が見えました。九份ではたくさんのお土産屋さんがあって、ヌガーやパイナップルケーキなどがありました。私はパイナップルケーキと、「I love TAIWAN」とかかれた T シャツを買いました。ホテルについたあと、みんなで地下鉄に乗って大きなスーパーに行きました。とても大きくて、日本のお菓子もあったし、日本にない味のお菓子などがありました。地下鉄の切符はプラスチックでできていて、日本のように使い捨てではなく何回も使いまわしていました。電車料金は日本に比べて少し安く、20 元（日本円で約 100 円）で割と移動ができました。



4 日目、私達は学校交流をさせてもらいました。台湾の授業を受けさせてもらい、英語と数学を受けました。英語の授業では日本語で書かれたプリントをもらい授業を受

けました。授業が終わった後、先生がぷちチョコシューをくれました。付き添ってくれた子が教科書をすべて日本語に翻訳したものを用意してくれていて、とても親切でした。給食も食べさせてもらい、想像以上におもてなししてくれました。付き添ってくれた子とはとても仲良くなることができ、日本に帰ってきても連絡が取れていて、海外の友達ができたのが一番嬉しかったです。その後、西門町で買い物をしました。西門町ではポップマートに行っ
てラブブを購入しました。

5日目、私達はいろんなところに観光をしに行きました。朝、中正紀念堂に行き、原住民博物館や故宮博物館、龍山寺、忠烈祠に行きました。特に印象に残ったのは故宮博物館にたくさんの作品が並んでいて、台湾の歴史がよく分かるものばかりだったことです。



そして6日目は、朝はやくにホテルを出発し、桃園空港に向かいました。桃園についた後、許（きょ）さんと解散して出国しました。その後、桃園空港を出発し、台湾派遣が終了しました。4回の事後研修で学習発表会に向けて準備し、無事学習発表会も終了することができました。

今回、台湾に行かせてもらって変わったことは、海外は怖いところだという固定概念がなくなったこと、台湾はあまり身近じゃないことから台湾についてなにもわからなかったが、台湾がとても身近になったことです。今回本当に貴重な経験をさせてもらいました。ありがとうございました。



台湾派遣交流事業に参加して

登別明日中等教育学校3回生 三條 結花

私は、台湾派遣交流事業を通して、今まで知らなかった文化や考え方にたくさん出会えました。

台湾で嬉しかったこと、楽しかったことが4つあります。

1つ目は、タイヤル族の方と交流できたことです。最初は緊張して顔が引きつっていました。でも、たくさん話しかけてくれたり、ダンスを一緒にしたり、体を使ったゲームをして楽しく過ごせました。原住民の方だからできる弓矢体験、刺青体験、衣服を着る体験などをさせていただきとても貴重な時間となりました。ご飯は、口に合わないものも少しありましたが、いのしし肉やウインナーに似たようなもの、自分で作らせていただいた竹筒ご飯がおいしかったです。お腹いっぱいになるまで食べさせていただいて嬉しかったです。

2つ目は、九份に行けたことです。私は今まで千と千尋の神隠しを見たことがなく、出発前に金曜ロードショーで初めて見ました。テレビで見た湯婆婆の屋敷を生で見ることができてとても感動しました。提灯にも明かりがついていて綺麗でした。食べてみたかったパイナップルケーキやお茶をお土産で買えたり、本場のタピオカミルクティーを飲んで満足できました。タピオカミルクティーは日本よりも値段がとても安くて驚きました。食感は日本のタピオカよりモチモチしている感じがしました。今でもあのタピオカミルクティーを忘れられなく、また飲みたいと思います。

3つ目は、学校交流です。会話は中国語のため何を言っているのか分からない状態だったけど、笑顔でいたり、ジェスチャーをすると、相手も必死に伝えようとしてくれて心で繋がることができました。授業の内容は、地球温暖化や海、陸の環境問題に関わることで私が受けていることとほぼ同じで世界共通なんだなと思いました。給食は、みんなで座って食べるのではなく各自で食べる形で、廊下で食べていたり、立ちながら食べている人がいて驚きました。日本とは味に大きく違いがあって、日本の給食の味がとても美味しいことを実感しました。学生とインスタグラムを交換することができて、今も少しだけ連絡を取り合うことができています。少しの時間だったけど仲良くなることができて、台湾でのお友達ができて嬉しかったです。

4つ目は、台湾メンバーみんなと仲良くなれたことです。最初はみんな緊張などでお互い全然話せないまま台湾に向かいました。最初の1、2日目はま

だぎこちない雰囲気があったけど、3日目からは夜みんなで集まったりして
どんどん打ち解けてきて、仲良くなることができました。楽しい6日間を過
ごせたのもみんなのおかげです。このメンバーで行けてとても楽しい毎日で
した。

最初は、台湾に入国したとき、匂い、水、トイレ、人との関わりなど不安
なことの方が多かったし、6日も環境が変わることにいるのがすごく怖かつ
たけれど、そんな印象をかき消すくらい楽しくて、とても充実した6日間と
なりました。実際に行ってみて海外への思いが変わり、またどこかの国へ行
きたいなと思うようになりました。これからは、台湾派遣交流事業で学んだ
コミュニケーションの取り方、たくさんの経験を活かして新しいことにも挑
戦して過ごしていきたいです。また機会があれば派遣交流事業にも参加させ
ていただきたいです。



研修テーマ



楽水部落にて

令和7年度登別市中学生台湾派遣交流事業

アイヌとタイヤルの 文化の違いについて

服装・生活習慣

登別市立登別中学校2年 國京 心結

登別市立登別中学校2年 國京 心結 です。

私は今回の台湾派遣交流事業で、アイヌとタイヤルの服装や生活習慣の文化の違いをテーマにすることを決めました。私がこれをテーマに選んだ理由は、どちらも、その民族の暮らしや考え方がよく表れると思ったからです。アイヌとタイヤルの住んでいる場所は違いますが、自然とともに生きてきた点が共通していると思います、このテーマを選びました。この発表では、タイヤル族の方や台湾の文化を実際に見たり、体験したことで知ったことや感じたこと、アイヌとの共通点、相違点などを中心にご紹介します。

服の試着

肩から掛けるようなスタイルになっていました。
昔は、この布1枚で生活していたそうです。



タイヤル族の方々に会ってまず始めに行ったのは、タイヤルの服の試着と入れ墨の体験でした。

服の試着をして気づいたことは、衣服には様々な文様が描かれており、線を基調としたデザインとなっていることです。アイヌの服装の文様はモレウという曲線を描くものが多いため、そこも一つの違いだと感じました。

そして、肩の部分には、ひし形の形をした模様が描かれており、それは祖先の精霊の目として伝えられていて、「祖先が見ているから、悪さはしないようにしよう」とタイヤルの人たちは考えていました。

また、昔はこの布1枚で生活していたと現地の方は話していました。台湾は日本と比べて温暖で湿度も高いため、タイヤル族の服装は動きやすく、通気性を重視した実用的なものだったと考えられます。一方で、アイヌ民族の服装は寒冷な地域での生活に対応するため、防寒性や耐久性を重視して作られているものが多いです。

同じ先住民族であっても、生活する環境の違いが服装に影響していることがわかりました。

入れ墨の体験

実際に体験して、意味を知ったことで、
入れ墨に対する見方も変わりました。



服の試着の次に行ったのは入れ墨の体験です。タイヤル族にとって入れ墨は、ただの装飾ではなく、大人として認められた証などの様々な理由で入れ墨をします。私達が体験した入れ墨はシールとなっていて、緑色でひし形に近い形や線が描かれたものを顔につけました。

実際に入れ墨の体験をしてみて、最初は少し緊張でドキドキしましたが、文化の意味を知ったうえで体験すると、入れ墨に対する見方が大きく変わりました。また、貴重な経験だと感じました。

今も息づく狩猟文化



弓の体験

ここからは、私が現地で驚いた生活習慣についてお話します。それは、伝統的な「狩猟文化」が今もなお、彼らの日常の中に生き続けているということです。ここで、この写真を見てください。私は現地で、実際に弓を使う体験をしました。現地の方に弓を教えてもらいながら弓を引いてみると、意外と力が必要で、何度か引いただけでも疲れてしまい、扱うのが難しかったです。また、話を聞く中で、現地では鉄砲を使って狩猟をしているということを知りました。

実際に弓の難しさを体験したからこそ、狩猟が簡単なものではなく、山の中で獲物と向き合い、命をいただく行為がいかに真剣なものであるかが伝わりました。このような自然とともに生きるという姿勢は、日本のアイヌ民族が自然をカムイとして敬うことと深く通じているものだと感じました。

お昼ご飯

タイヤルの方達が料理をして、暖かくもてなしてくれました。とても美味しかったです！



お昼には、タイヤルの方たちが調理してくださったお昼ご飯をいただきました。イノシシのお肉が入ったスープや野菜、炒め物などがあり、バイキング形式で取りました。イノシシのお肉はあまり食べたことがなかったため、最初は驚きましたが、どの料理も素材を味を生かした優しい味付けでとても美味しかったです。特にスープは中に具材本来の味がして、学校で給食で出てきたときに食べたアイヌの「チェプオハウ」という魚を使った汁物とよく似ていると思いました。タイヤルの方々は、私達のために料理を用意してくださり、暖かくもてなしてくれました。料理を通して、自然の恵みを生かした料理が、タイヤルの人達の生活の中にあることがわかりました。

順益台湾原住民博物館



実際に使われていた道具などを見て、様々な原住民族についての理解が深まりました

タイヤルの方々との交流の後に、順益台湾原住民博物館（じゅんえきたいわんげんじゅうみんはくぶつかん）訪れました。博物館では、タイヤル族以外にも、台湾に暮らす様々な原住民族についての、衣服や楽器、狩りなどに使う道具が沢山展示されていました。展示されていたタイヤルの服を見てみると、私達が実際に試着したものとは違い、生地には多くの刺繍がされていて、鮮やかな色が使われていました。また、男性と女性では、色だけでなく着方や身に付けるものにも違いがあることがわかりました。

入れ墨～男女の違い



私達が体験した入れ墨についても写真がありました。男性の入れ墨の入れる場所は顎とおでこ、女性の入れ墨の入れる場所は頬となっていて、私達がつけた入れ墨の場所と同じでした。また、男性は狩猟における強さなどの証として、女性は結婚や成人の証として入れるそうです。この入れ墨をする文化はアイヌにもあり、女性が口の周りに魔除け・守護、成人の証などという目的で入れます。このように入れ墨は体に直接意味を表す文化であり、次に紹介する服装や装身具も、同じように人々の役割や考え方を表していると感じました。

服装や装身具



博物館には、服装や生活で使われていた道具が多く展示されていました。ここで、左下の服の写真をみてください。展示されていた服装はしっかりとした袖があり、スカートで覆われているなど、男女の違いがはっきりしており、私達が実際に試着したものとは異なっていました。また、女性がつける首飾りや耳飾りも多く展示されていました。アイヌ民族にも耳飾りや首飾り、腕飾りなどの装身具が多くあるため、共通している点だと感じました。これらの服装の形や道具を通して、自然の中で役割を分担して生きてきた、先住民族の歴史が感じられました。また、実物を見ることで、文化が今にも大切に受け継がれていることがわかりました。

心で通じ合う



相手を思う気持ちの大切さに
改めて気づきました。



私は、この台湾派遣交流事業を通して、自分の気持ちを伝えようとする大切さを強く感じました。

タイヤル族の方々や学校交流で出会った様々な人達との交流の中で、言葉が通じず、困った場面もありました。しかし、表情やジェスチャーを使って一生懸命伝えようとする、気持ちが通じ合うことがあるのだと実感しました。

また、うまく伝えられないからこそ、相手の表情や行動をよく見ようとするようになりました。

相手が何を感じているのかを考えることが、交流を深めることにつながるのだと思いました。

この経験を通じて、人に関わる時には、言葉だけに頼らず、相手を思いやる気持ちが大切だと学びました。

相手を敬う気持ちや自分の気持ちを素直に表すことを大切にしながら、これからの生活にも活かしていきたいと思いました。

タイヤルの人達や文化に触れることができ良かったです！



今回、タイヤル族の人々や文化に直接ふれることができ、とても貴重な体験な経験になりました。お会いした方々がとてもフレンドリーに接してくださり、楽しく学ぶことができました。この経験を通じて、違う文化を知り、相手を大切にする気持ちが大事だと感じました。今後も、様々な文化について学び、理解を深めていきたいです。

ご静聴ありがとうございました！



ご静聴、ありがとうございました！



僕は台湾に行ってきました。台湾で何をしたか、台湾で何を食べたかを発表していきます。

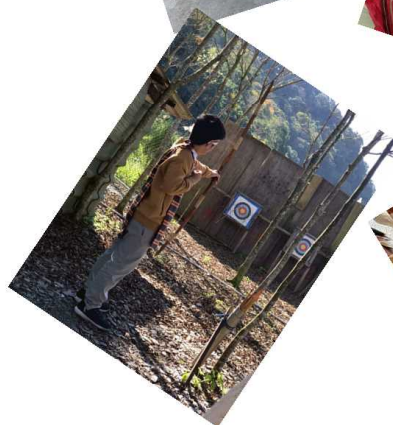
テーマ

タイヤル族とアイヌ民族と世界の食文化を比較してみる。

テーマはタイヤル族とアイヌ民族と世界の食文化を比較して見るです。

タイヤル族に訪問しました！

タイヤル族の服を着たり、体験したり、タイヤル族の方々が作ったごはんを食べたりしました！



タイヤル族の食文化はイノシシ肉や竹筒で炊いたご飯などがあります。

台湾の中学校を訪問しました！

台湾の中学校に行ってきました！！

日本の中学校よりも自由だと思いました。家庭科みたいな授業を受けていたときお菓子の成分を確かめて授業終わりに食べていたり自由だと思いました。



九份に行ってきた！

九份とはジブリの千と千尋の
神隠しの舞台の一つに選ばれ
た場所です。





台湾研修を通じた感想

- ・ 僕は台湾研修を通して、学校では日本と台湾で大切にしている**価値観**が違うことがわかったし。(日本では**協調性や思いやり**を大切にしますが台湾は**縛られずに自由**であることが大切だと考えているようです)
- ・ 食事は中華特有の円卓で日本とは違うなと感じる場面がありました。



皆さんこんにちは。これから台湾での自然と音楽について発表します。

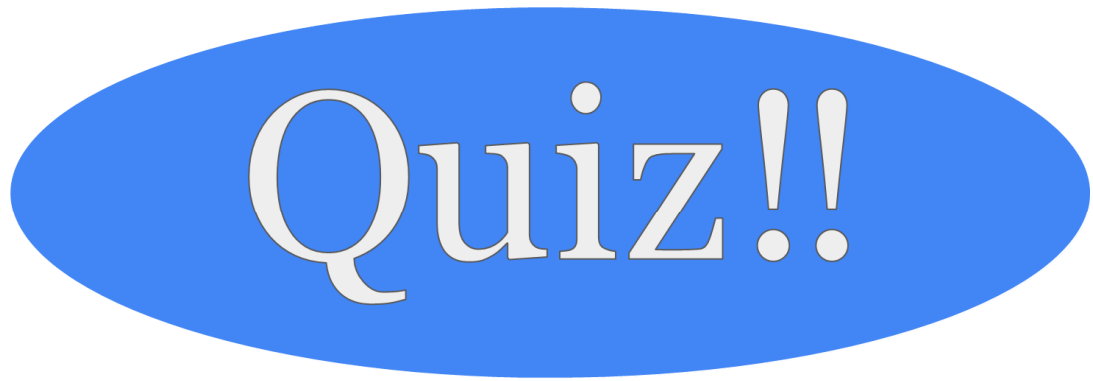
タイヤル族とは？

- ・台湾の原住民族で2番目に多い
- ・人口約7万5000人
- ・タイヤル語
- ・顔に刺青がある



next?

まず、タイヤル族とは台湾の中で二番目に多い原住民族で、人口約7万5000人、言語はタイヤル語という文字がない喋り言葉です。顔に刺青があるのが特徴です。そして



次にクイズです

タイヤル族は顔に刺青を入れるのが特徴
ですが、成人の儀式として何歳頃に入れ
る事が多いでしょう

A 18~20歳

B 10~12歳頃

C 15~18歳

(問題読み上げ) 30秒あげるので考えてみてください 30秒後 また読み上げ 手
を上げてください

Aだと思った人 ~

正解は

正解は？

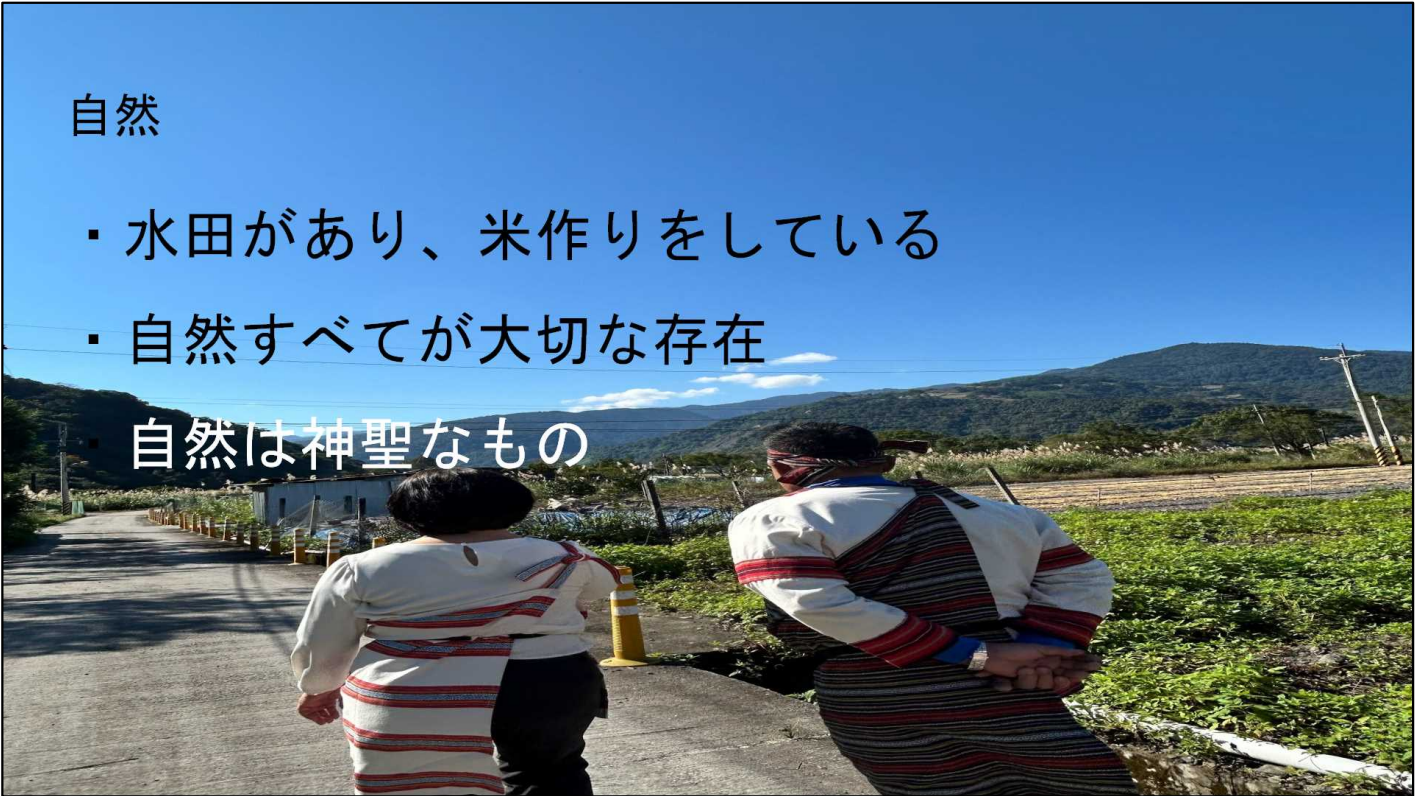
Cの15歳から18歳!!

Cの15歳から18歳でした

自然

- ・ 水田があり、米作りをしている
- ・ 自然すべてが大切な存在

自然は神聖なもの



次に本題の自然についてです。タイヤル族にとって自然とはすべてが大切な存在であり神聖なものであると考えられています
そしてタイヤル族の地域には水田があり、米作りも行われています。しかしこのお米の文化は元々日本人が持ってきたものだそうです
お米の文化以外にも桃などの果実やキャベツやレタスなどと幅広い食べ物が作られています。



そしてこの写真に写っているのが教会です。ここでは自然を崇拝するための場所だそうです。彼らはすごく自然を大切に敬っています。建物が多く見えますが高台なので自然がとてもきれいに見えます。



自然が広大できれい

こちらが少し高いところから見た眺めです。

音楽

- ・ 自然や生活と結びついている
- ・ 自然への感謝や祈りを表す
- ・ 儀式や集まりで歌やリズムを使う

タイヤル族の音楽は自然や生活と結びついており、音楽はただ楽しむものではなく、自然への感謝や祈り、気持ちを伝える手段でもあります。儀式や集まりで歌やリズムを使うそうです。

音楽での気づき

ムックリと似た楽器が作られていた

タイヤル族の人は歌がうまい

いろいろな楽器があった

そしてタイヤル族の音楽について調べて気付いたことが3つあります。まず、アイヌ民族でよく使われているムックリがありましたが、タイヤル族にも似たような楽器があり、振動を使って音を表す口琴があるそうでルブという名前です。次にタイヤル族にはたくさんの楽器があることです。歓迎会としてタイヤル族の演奏してもらった際に手で叩く太鼓や竹製の長い棒状のものを筒状の木材岩に打ち付けて音を出すものなど見た子のない楽器がたくさんいました。そしてタイヤル族は声が大きく歌がとても美味かったです。

まとめ

自然すべてが尊く大切な存在

音楽は自然への感謝の気持ちや祈りを表すもの

現代の変化の中でも文化を守ることが重要

タイヤル族にとって自然はすべてが大切であり、音楽は自然への感謝や祈りを表す文化でした。また水田やお米の文化は日本から伝わったので自然の中の暮らしが外の文化と結びついて変化してきました。それでも自然を大切に考える考え方や音楽の意味は今も受け継がれています。これで私の発表は終わります。

台湾研修

塩崎駿祐

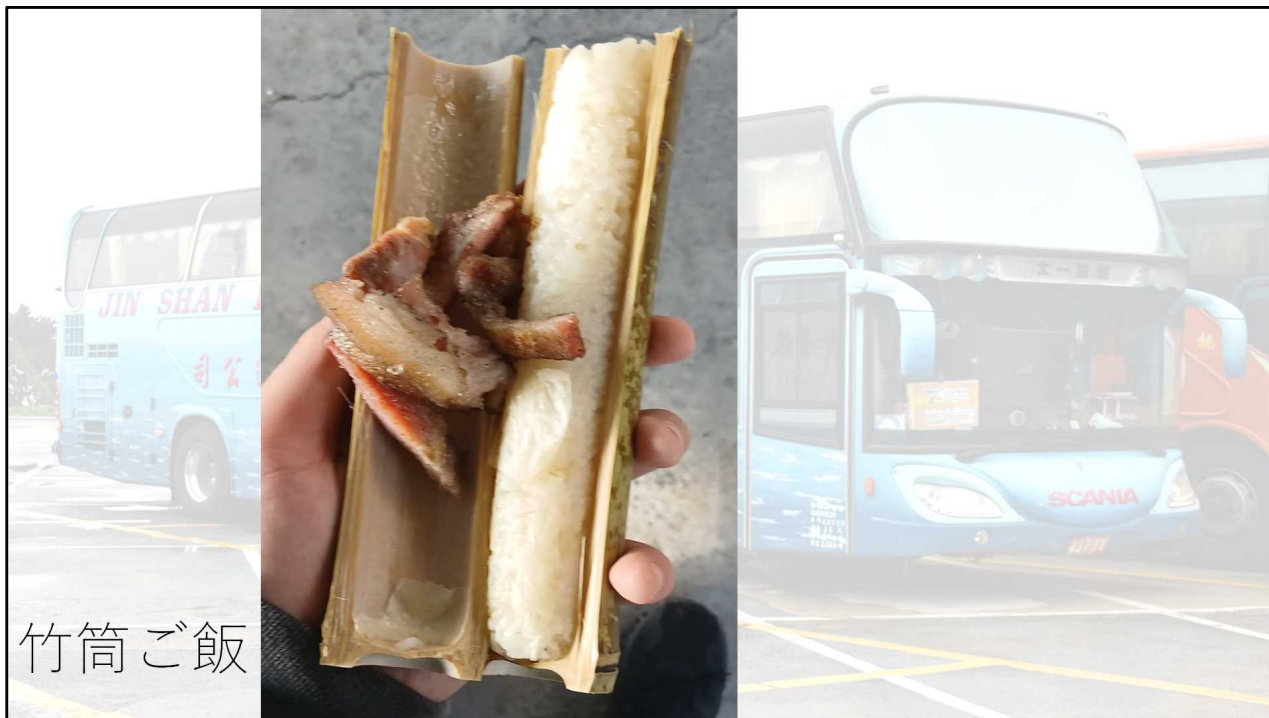
こんにちは登別明日中等教育学校1回生塩崎駿祐です。僕は登別台湾交流事業という研修に参加し1月4日から1月9日に台湾に行ってきました。そこで知ったことや発見したことなどについて発表していきます。



この写真の右の方はタイヤル族のいろいろと教えてくれたタイヤル族のガイドさんたけるさんです。とてもやさしくて話しやすかったです。そして僕の発表のテーマはタイヤル族とアイヌ族の料理の比較についてです。

タイヤル料理

まずタイヤル料理についての説明です。



これは竹筒ご飯です。竹筒ご飯は、竹の筒を使って炊き上げる料理で、主に米や具材を詰めて調理します。竹の内側の成分が米に移り、ご飯は竹の香りがします。そしてこれは狩りに行くときなどのお弁当にもっていきます。

キムチ



これはキムチです。キムチは白菜などの野菜をトウガラシなどの香辛料でつけたものです。日本のキムチと比べて日本より辛くなかったです。

かぼちゃのフライ



これはかぼちゃのフライです。この料理はかぼちゃを小さめに切って片栗粉をつけて揚げたものです。味はほんのり塩味がして、カボチャの味がメインでカボチャの風味がとてもしておいしかったです。

白身魚のフライ



これは白身魚のフライです。これも白身魚に片栗粉をつけて揚げたものです。味は塩味です。日本で言うほっけフライに近い味でした。この白身魚のフライは衣がふわふわしていてとてもおいしかったです。

玉ねぎとソーセージの炒め物



これは玉ねぎとソーセージの炒め物です。これは名前の通りソーセージと玉ねぎを炒めた料理です。味は塩っぽい味です。食べたとき玉ねぎに火が通ってなくシャキシャキして辛かったのですがソーセージと一緒に食べたらとてもちょうどよい味になりタイヤル料理の中で一番おいしかったです。

アイヌ料理

次にアイヌ料理について説明します。

チェプオハウ



これはチェプオハウといいます。チェプオハウは秋から冬にかけて、鮭が手に入ったときにつくります。チェプオハウのおはうの意味を知っていますかおはうは汁という意味を表します。そしてチェプオハウのチェプは鮭という意味を表します。チェプオハウは秋から冬にかけて、鮭が手に入ったときにつくります。

チポロシト



チポロシトは、アイヌ料理の一つで、**イクラ（チポロ）**を潰したじゃがいも（シト）を団子状に焼いた料理です。イクラの甘さとじゃがいもの風味が絶妙に調和し、アイヌの食文化において重要な位置を占めています。通常、じゃがいもを潰して丸めて焼き、その上にイクラをのせたものが一般的です

チポロウシイモ



チポロウシイモは、アイヌ料理の一つで、**塩ゆでしたジャガイモにイクラを混ぜ合わせた料理**です。イクラは「チポロ」、ジャガイモは「ウシイモ」と呼ばれ、地域によっては「チポロウシイモ」とも呼ばれます。この料理は、アイヌの食文化において重要なもので、日常食や祭事の際に提供されることが多いです

チポロウシイモは、北海道の伝統的な料理で、じゃがいもの皮をむいて塩ゆでし、やわらかくなったら軽くつぶしてから、冷ましてから筋子を入れて出来上がります。この料理は、じゃがいもとイクラを使った「いももち」のようなもので、見た目は「いももち」ですが、イクラがのっているところが新鮮です。

チポロウシイモは、北海道の伝統的な料理で、じゃがいもの皮をむいて塩ゆでし、やわらかくなったら軽くつぶしてから、冷ましてから筋子を入れて出来上がります。この料理は、じゃがいもとイクラを使った「いももち」のようなもので、見た目は「いももち」ですが、イクラがのっているところが新鮮です。

共通点

- ・ タイヤル族もアイヌ族も自然でとれる食べ物を使って料理している。
- ・ どちらも伝統的な衣類がある



相違点

- ・アイヌ族の料理は薄味でタイヤル族は濃いめ
- ・アイヌ族とタイヤル族の矢じり

アイヌ族の料理は薄味でタイヤル族は濃いめでした。僕はアイヌ族の料理をウポポイの料理体験見たいので作って食べたことがあります。そこで食べたときちょっと味が薄めで食材の味がちゃんとしてました。そしてタイヤル族との交流の時に食べたタイヤル料理はアイヌ料理と比べて味が濃かったです。そしてもう一つはアイヌ族とタイヤル族の矢じりの違いです。タイヤル族は矢じりを鉄で作っていたのですがアイヌぞくは黒曜石という鋭い石で矢じりを作っていました。

感想

僕は初めて台湾に行き初めて国際線にのり始めてタイヤル族と交流しました。初めてタイヤル族と交流したとき最初は緊張してあまり話せずタイヤルの方に質問されてもおどおどしてうまく返せませんでした。2回目にあつたときはあまり緊張せずに話すことができとても楽しかったです。そして学校交流では互いに言語が通じないので翻訳アプリや英語などで会話し3時間ぐらいしか話したりしなかったけどすぐに仲良くなることができとても楽しかったです。僕が大人になってまた海外に行く機会があつたら台湾に行ってもっと長く滞在し台湾についてよく知りたいです



アイヌ民族と タイヤル族の暮らしの違い について



登別明日中等教育学校
1回生白崎ひなた

登別明日中等教育学校 1回生白崎ひなたです。
私たちは登別市中学生台湾派遣交流事業という貴重な機会をもらい、台湾に行き、タイヤル族の方々と交流をしたり、学校交流を行い、観光地にも行き、たくさんの経験をしました。そしてこの場を借りて、私が台湾で学んだことを発表します。
私の発表テーマはアイヌ民族とタイヤル族の生活の違いについてです。

アイヌ民族の起源とは

- ・ 大昔は陸続きだった
- ・ 北から獲物を狙って人がやってくる
- ・ 島国になると、本州からも人がやってくる
- ・ サハリンからオホーツク沿岸部に住んでる
- ・ 「オホーツク人」がやってくる

↳ ずっと前からいた縄文人をベースに色々な文化が混ざってできた民族

まずまずアイヌ民族の起源とはということなんですが、大昔はサハリンと北海道北部がつながっていたとき、最初の人類はナンマンゾウなどの獲物を追って北のルートから歩いてきたと考えられており、氷河期が終わって島国になったら、本州の方から船で人がやってきます。こうして、北海道縄文人というアイヌ民族の基盤となる民族が生まれます。つまりはずっと前からいた縄文人をベースにいろいろな文化が混ざってできた民族だそうです。

アイヌの生活の仕方

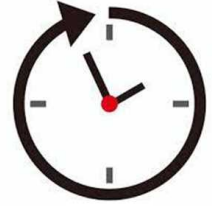
- ・ アイヌ民族の時間の考え方
↳ 家族、ご近所単位



儀式の時間は決まっていた！！！！

踏まえてほしいこととして、アイヌ民族は1時、2時という時間は基本としていなく、家族やご近所さん単位での時間を過ごしていたそうです。タイヤル族が基準にしているのは、太陽の位置や動植物の行動などだそうです。でも、タイヤル族は時間というよりも「現在何をしているか」を重要視していて、家族の食事や村の会議、お祭りなどの活動が終わった時点が時の区切りとなるそうです。

アイヌ民族とタイヤル族の



生活の共通点

どちらの民族も無秩序に生活していたわけではなくそれぞれ異なる基準で一日や一年を組み立てていた。

要はどちらの民族も適当に生活していたわけではなく、それぞれ異なる基準で1日や1年を過ごしていたそうです。

「イチャルバ」とは



「あの世」



・ あの世は現世と時間が真逆

現世で夕方に儀式を行うとあの世の朝を迎える時間に先祖を迎えることができた

↳ 1日中ご先祖様が見守っていてくれる

アイヌ民族のじかんの過ごし方の基準です。先程も話しましたが、アイヌ民族は家族単位で時間を決めているので、特にはないのですが、「イチャルバ」という先祖を供養するための儀式を行う時間は決まっていたそうです。

「チャルバ」とはいわゆるあの世のことで、あの世は現世との時間が真逆だと信じられており、現世の夕方に実施することであの世の明け方に先祖を迎える、つまり、1日この世にいてもらえると考えられていたそうです。このことから夕方に行われていたそうです。

アイヌ民族の1日

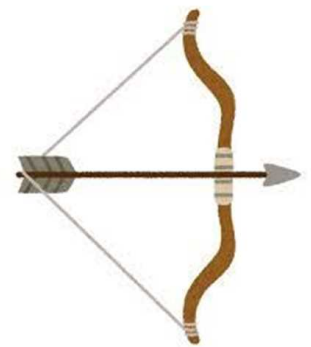
朝日が昇る～起床 旦那さん⇒狩りの準備

奥さん⇒食事の準備

～そのあと～

旦那さん⇒他の男達と狩り

奥さん⇒裁縫や料理をして過ごす



早速、アイヌ民族の1日の生活スタイルです。アイヌ民族は朝日が昇りとともに起床し、旦那さんは狩りの準備、奥さんは食事の準備、子供は大人の手伝いをするそうです。食事が終わったら旦那さんは他の男達と狩りへ行き、奥さんはその間、裁縫をしたり、料理をしたりして過ごすそうです。女の人たちだけでうたう歌や踊りはこういった時間に行われていたものもあるそうです。子どもたちは、子供だけで集まって遊んだり、奥さんたちの手伝いをしたり、成人に近い男の子は狩りの手伝いに行くこともあったそうです。

～夕方～

旦那さんが帰ってきたら食卓を囲み、食事。



夕方、旦那さんたちが帰ってきたら家族みんな
で食卓を囲って食事をします。夜は家族や
集落の人達とお喋りをする時間だそうです。
アイヌ民族は口で伝統などを受け継ぐのでこ
ういった場で伝統を受け継いだりしていたと
考えられるそうです。

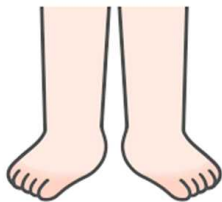
タイヤル族の起源

- ・ 巨石が割れて人類が誕生した
- ・ Gagaと呼ばれる先祖から伝わる絶対的信仰
- ・ 亡くなったあとは顔に入れ墨があり、一所懸命に働いた人のみがわたる虹の橋

タイヤル族の起源は台湾中部にある山にあった巨石が突然割れ、男女3人が現れ、一人は岩の外の世界を怖がって岩へ戻っていったため、残った二人が結婚しタイヤル族の祖先が生まれたという伝説があるそうです。他の特徴的な文化は、ガガという先祖から伝わったことの絶対的信仰や、亡くなったあとは一所懸命に働いた人だけが渡れる虹の橋などがあります。

当時は生活が厳しかった！

- ・ カバン代わりに風呂敷
- ・ 常に裸足
- ・ 電気はあるけどガスがないから川から廃材



続いて、タイヤル族の1日の生活スタイルですが、訪問したタイヤル族の方々に教えていただいたのは4、50年前ほど前の話なので、タイヤル族はアイヌに比べて割と現代人に馴染んでしまっていますが、時間の感覚は現代人に近いです。まず、当時は生活が厳しく、カバン代わりに風呂敷を使っていたり、常に裸足だったそうです。当時の子供達はとてもやんちゃで遊ぶのが好きだったそうです。授業をサボって近くのフルーツを取りに行き、親をしょっちゅう困らせていたくらい、遊ぶの

が好きだったそうです。

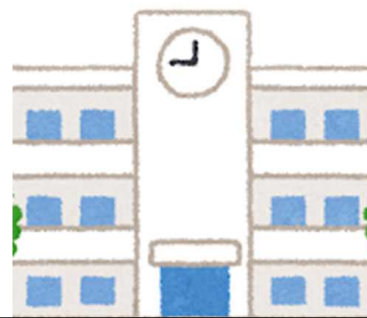
でも、中学生になるとみんな大人しくなって勉強が好きになっていたそうです。当時は小学校の近くに幼稚園や中学校もあったそうですが、

ちなみに、、、

タイヤル族の今の過ごし方

(訪問させていただいたところの場合)

- ・ 小学校はあるけど中学校はないので街の方に毎日通っている！



いまは1学年一人、二人しかいないらしく、町の中学校に毎日1時間かけて通っているそうです。町の中学校に行くためのバスは1日3本しか通っていないので、塾に通いたくても通えないそうです。どうしても通いたい場合は街の方に引っ越すそうです。

当時の放課後の過ごし方

- ・ 1年中川で遊んでいた
- ・ 川で廃材を拾う



などなど...

放課後は冬でも関係なく川で遊んだり、当時は電気は通っていたけど、ガスがなかったらしく、川で廃材を拾いそれを燃料にしていたため、放課後は川で燃料となる廃材を拾っていたそうです。

～まとめ～

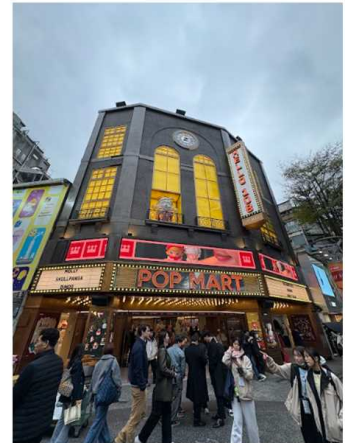
- ・ じつはおなじ部族だった説
- ↳ ・ 顔の文様
 - ・ ムックリの形 などなど、
- ・ 関わりがあった説



全体を通して私が思ったことや現地で話題になったのは、アイヌ民族とタイヤル族の細かい部分が似ていることから「おなじ部族だったのではないのか」ということや、「じつは関わりがあったのではないのか」ということで、実際に、顔に入れ墨を入れる点や、ムックリに似た楽器があることがあり、とても共通している点が多かったです。

行った観光地

- 九份
- 龍山寺
- 西門町
- 中正紀念堂
- 原住民博物館
- 故宮博物館
- 忠烈祠



最後に私達が行った観光地を紹介します。
行ったのは、九份、龍山寺、西門町、中正紀念堂、原住民博物館、故宮博物館、忠烈祠です。この中から中正記念堂を紹介します。

中正記念堂とは

- ・ 台湾を作った蔣介石を追悼するための建物
- ・ 台湾の3大観光の1つ
- ・ 1時間毎の衛兵交代
- ・ 蔣介石の本名が「中正」



中正記念堂とは、台湾を作ったしょうかいせきを追悼するための建物で、台湾の3大観光の1つなんだそうです。毎日1時間毎に衛兵交代があります。中正記念堂の由来はしょうかいせきの本名が中正なんだからだそうです。台湾に行く機会があれば1度行ってみたいかどうか。

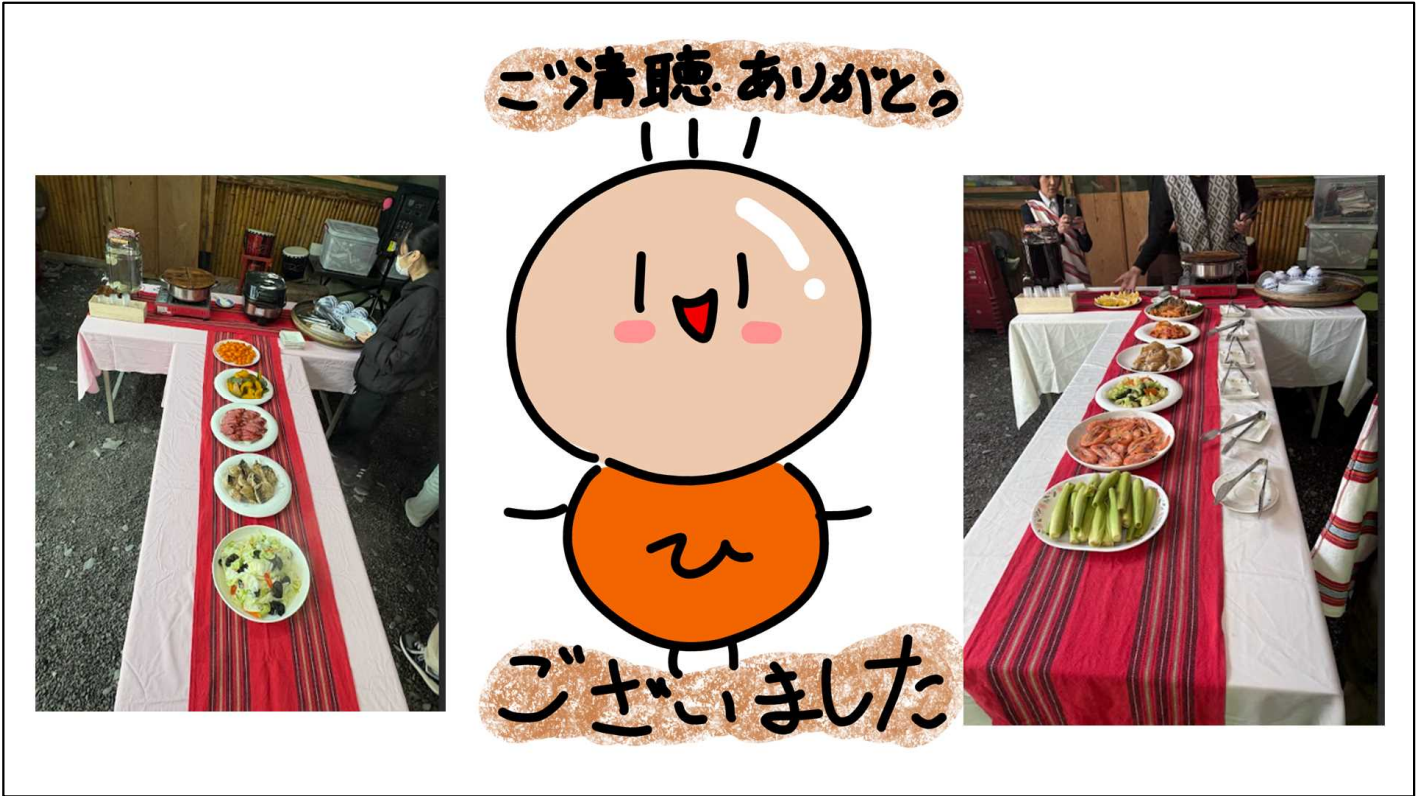
台湾派遣の感想

- ・初めての海外
- ・みんなあまり関わったことがなかった人たち

でも！！仲が深まった！！！！

今回の台湾派遣の感想ですが、今回の台湾派遣のメンバー、ほとんど海外は初めてで、事前研修での関わりも少なかった中で台湾でたくさん関わって、いろんなことがあったけど、協力して無事に帰ってこれたことがすごく良かったなと思っています。

そして、今回みんなで関わってとても仲が深まったことが1番良かったのかなと思いました！たくさんいろんな観光地にも行って、いろんなものを見て食べて買って、すごくいい思い出になりました！



ご清聴ありがとうございました。

台湾派遣交流事業

三條結花

こんにちは。登別明日中等教育学校の三條結花です。私はタイヤル族の日常生活（食べ物、生活習慣、言語等）を知るということを目的とし、台湾に行ってきました。タイヤル族の方たちと交流して知れたこと、また日本のアイヌ民族との共通点や違い、最後に台湾での思い出について発表します。

タイヤル族とは

台湾原住民の中でも2番目に多い8万5000人の人口規模を持つ民族集団。

居住地域は台湾の北部から中部にかけての脊梁山脈地域。



まず、タイヤル族とは、台湾原住民の中でも2番目に多い8万5000人の人口規模を持つ民族集団のことです。一番多い原住民は、アミ族で約22万人です。台湾の人口は、2350万人でその中のタイヤル族の人口は約0,3~0,4%となっています。これだととても少なく感じますが、台湾原住民61万人で表すと、約16~17%となり、なんとなく多そうなことがわかります。タイヤル族の居住（きょじゅう）地域は台湾の北部から中部にかけての脊梁（せきりょう）山脈地域となっています。この地図のここらへんです。

学生の生活習慣

- ・ 中学校→部落から出て都会の学校に行く

朝、昼、晩3本のバスで行かなければならない

親に迎えに来てもらうか、都会に引っ越してくれば塾にいける

※アイヌ民族は「学生」がない

次は、学生の生活習慣についてです。私たちと同じ中学生は、部落から出て都会の中学校に行きます。小学校は部落にありますが中学校は人数が少なすぎるため部落にはありません。そして学校までは、朝、昼、晩の3本のバスで行って帰って来なければなりません。もし塾に行く場合は、親に迎えに来てもらうか、家族で都会に引っ越してこないといけません。

アイヌ民族はそもそも学生という概念がありません。私たちは学校に通えている毎日を当たり前だと思っているので感謝しようと思いました。

言語（タイヤル族）

- ・昔→タイヤル語
- ・今→みんなで同じ言葉を使うため國語
- ・まほいっす→ありがとうございます



さゆん→笑顔

そして、言語についてです。タイヤル族は昔タイヤル語で会話をしていました。でも今は原住民以外との交流もあるため、國語を使って話しています。私が学んできたタイヤル語は、「まほいっす→ありがとうございます」と「さゆん→笑顔」です。一人一つ自分の特徴を言って、タイヤル語でその特徴を例えてもらって、その言葉を使って遊ぶゲームもしました。私は特徴に「さゆん」を選びました。途中で間違えてしまったのでひつじのモノマネを罰ゲームでしました。その時は恥ずかしくて全力を出せなかったものでいつもの私でやればよかったと思いました。

言語（アイヌ民族）

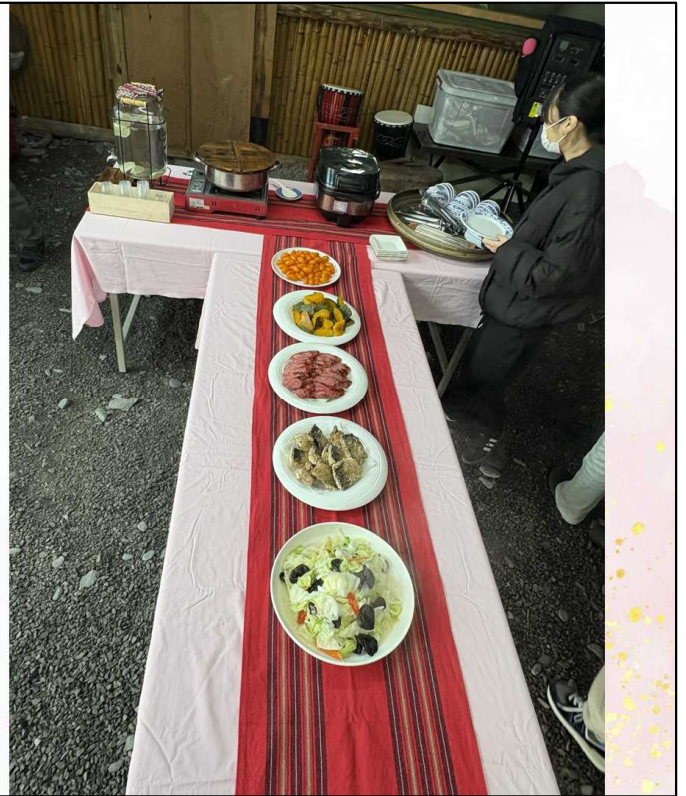
- ・ 昔→アイヌ語
- ・ 今→日本語

アイヌ民族は、昔はアイヌ語で今は日本語を使っています。どちらも民族の言語から國語に変わって使っていることが同じだと思いました。でも、北海道は川や地名をアイヌ語を由来として決められたところがありますが、タイヤル語はそういうのはないとおっしゃっていました。そんなアイヌ語は現在、ユネスコの消滅危機言語に登録されてしまっています。

食（タイヤル族）

- ・ 昔の主食→いのしし肉
- ・ 農作業がわかるようになった→いも、とうもろこし
- ・ 日本人の磯 永吉（いそ えいきち）さんが米づくり教えた

3つ目は、食についてです。タイヤル族はいのしし肉を主食として食べていました。農作業がわかるようになってから、いも、とうもろこしを食べるようになり、さらに日本人の磯 永吉（いそ えいきち）さんが米づくりを教え、お米を食べるようになりました。農作業でとれた農作物は主に、すもも、もも、みかんなどが挙げられます。今挙げた3つはフルーツですが、基本的にフルーツは少ないです。なぜなら、猿が来て育てていた果物を食べてしまうからです。



これは実際にお昼ご飯で食べさせていただいた料理です。私は、いのししのお肉と生の玉ねぎとウインナーのようなものを一緒に食べるのがおいしかったです。口に合うもの合わないものがあったり大変でしたが、お腹いっぱいになるまで食べさせていただいて貴重な時間となりました。

食（アイヌ民族）

- ・ 基本的にオハウ（汁物）とサヨ（粥）
- ・ オハウの中のお肉→エゾシカ、ヒグマ、エゾタヌキ、エゾリス、ウサギ
など

アイヌ民族の食事についてですが、アイヌ民族はオハウ（汁物）とサヨ（かゆ）を食べます。タイヤル族の主食はいのしし肉でしたが、アイヌ民族のオハウに入っているお肉はエゾシカ、ヒグマ、エゾタヌキ、エゾリス、ウサギなどでした。お肉はお肉でも食べている種類が違いました。

タイヤル族でよかったこと

- ・ イベント開催時（他国から人が来るときなど）に文化を伝えられ、大事にしているのがいい
- ・ 文化、言葉、生活の知恵がほかよりついている
- ・ コロナ禍に制限されなかった



最後にタイヤル族でよかったことをお聞きしました。1つ目が、イベント開催時にタイヤル族の文化を伝えられて大事にしているの
がいい、2つ目に文化、言葉、生活の知恵がついていること、3つ
目にコロナ禍に制限されずに過ごせたこと、とおっしゃっていま
した。実際にタイヤル族の方と過ごしてみて、音楽を聞かせても
らったり、弓矢体験をしたり、ご飯を食べさせてもらったりして、
たくさんおもてなしをしてくださりました。イベントを大切にし
ていることを感じました。さらに、たくさんの自然に囲まれてい
て居心地がとてもよかったです。これは、タイヤル族の方と足ら
せていただいた写真です。



次に台湾での思い出です。これは九份にある、千と千尋の神隠しの湯婆婆の屋敷です。出発前にテレビで放送していて実際に見てみたい！という思いが強くなったためとても楽しみにしていました。本当は17時からしか提灯に明かりがつかないのですがこの日はたまたま16時くらいから明かりがついていたため見ることができました。とてもきれいでした。歩いているとお店があって、食べ物、雑貨、お土産などさまざまな種類のお店がありました。日本に馴染みのあるキャラクターがいて楽しくみることができました。タピオカミルクティーのお店を見つけたので飲みました。本場のタピオカは、とってもモチモチでした。一杯でお腹がとても満たされました。これも旅の目的の一つだったのでうれしかったです。



現地の学校にも行ってきました。授業と授業の間の10分休憩でお菓子を食べていたり、給食を立て食べていたり、廊下で食べていたり、私たちの学校生活とは違うことがたくさんありました。言葉が伝わらなくても翻訳機を使ったり、ジェスチャーをしたりして心で繋がれるように頑張りました。3時間目が芸術、4時間目が地理の授業で実際に教室で受けさせてもらいました。芸術は、日本での美術のような授業で、話している言葉は中国語だけどプリントには英語で書く欄があってなんとなく理解することができました。地理の授業では、担当の先生が日本語を話せる方だったため、日本語で書かれたスライドのプリントを用意してくださり授業を受けました。地球温暖化や火山、海のことなど内容が今学んでいることと似ていて少し理解しながら聞くことができました。

まとめ

- ・ 海外への印象が変わった
- ・ みんな仲良くなれた



まとめです。最初は海外を怖い場所だと思っていましたが、さまざまな文化を知って考え方が変わり、身近に感じるようになりました。今回は台湾に行ってみて、台湾のことを知らなかったけど自らたくさん調べられて楽しい研修になりました。そして、みんなと仲良くなれたのも思い出です。初めて会ったときから研修の1、2日目はみんな緊張していて全然話せなかったけど、夜部屋に集まってみんなゲームをしたり、たくさんお話ししたりしてどんどん仲良くなって今は気軽に話せるお友達として仲良くなれてとても嬉しく思います。貴重な経験をさせていただいた5泊6日でした。また機会があれば行きたいです！



ご清聴ありがとうございました。

引率者報告書



台北市立懷生国民中学にて

多文化共生推進事業 令和7年度 登別市中学生台湾派遣交流事業を終えて

登別市教育委員会学校教育グループ 更科 互輝

1 はじめに

本報告書は、令和8年1月4日(日)から1月9日(金)までの期間に実施された台湾派遣交流事業の成果と課題をまとめたものである。

本事業は、「登別市多文化共生推進事業 令和7年度登別市中学生台湾派遣交流事業実施要領」に基づき、海外の先住民の歴史や文化、取り組みについて理解を深めることにより、アイヌ文化の継承や多文化共生社会づくり等を担う人材を育成することを目的として実施した。

2 派遣概要

派遣先 中華民国台北市・宜蘭県大同郷

派遣期間 令和8年1月4日(日)から1月9日(金)まで

参加者 8名(内訳：中学生6名、職員2名)

3 派遣目的

(1) 多様な文化への理解を深める

アイヌ文化や台湾の先住民の文化の一つであるタイヤル族の文化などに触れることで、世界には自分たちと異なる多様な文化が存在し、それぞれに歴史と背景があることを理解する。

(2) 歴史的背景を学ぶ

先住民が、特有の文化を形成し、その後、他の民族等の影響によって現在の姿に変容してきた歴史的背景を学ぶことで、現代の文化や社会とのつながりを理解する。

(3) 文化の多様性を尊重する心を育む

異なる文化を持つ人々への理解を深め、文化の多様性を尊重する心を育む。

4 活動内容

(1) 事前研修

派遣前に、アイヌ民族の歴史、文化、多文化共生に関して受講するとともに語学研修を受けるなど、派遣目的の達成に向けた準備を実施。

(2) 現地体験プログラム

ア タイヤル族の伝統文化等の体験

タイヤル族の簡単な言語、舞踊を体験するとともにタイヤル族の歴史や現在の状況等について説明を受ける。

イ 懐生國民中學訪問

台北市内にある懐生國民中學を訪問し、学校の多文化共生に関する取組(先住民言語の伝承等)について説明を受け、また、同校生徒と一緒に授業を受けたり、給食を喫食したりして交流を深める。

ウ 順益台湾原住民博物館・故宮博物院の見学

台湾の先住民の歴史や文化等に関する展示を見学する。

エ 台北市内見学

龍山寺、中正紀念堂、夜市等の見学を通して台湾の文化、歴史等について学習する。

(3) 事後研修及び帰国報告会

派遣後、帰国報告会を開催し、派遣で得た学びや経験を共有する。

5 成果

- (1) タイヤル族の伝統文化等の体験や交流、台湾にいる他の先住民文化との違い、台湾の文化や歴史等について学習したことによって、多様な文化等に対する理解と重要性が深まり、今後の国際交流活動の基盤を構築することができた。
- (2) 同世代である中学生との交流を通じて、同年代としての共通点を見出すとともに、異文化への理解や各種デバイスを活用した話言葉以外でのコミュニケーション能力が向上した。

6 課題

今回の派遣を通じて、異文化理解を一層進めていくためには、次の2点について、事前研修の段階で一定程度解決した上で派遣に臨み、成果を持ち帰ることが望ましいと考えられる。

なお、今回の事前・事後の研修は、市民会館等に集合しての研修であった。対面での研修が望ましいものの、対面で実施することで研修の回数が制限されるのであれば、内容によってはオンラインでの研修実施も選択肢の一つになると考えた。

- (1) 事前研修において、アイヌ民族の歴史や文化等に関する知識は一定程度学ぶことができているが、それに加えて訪問先となる先住民族に関する知識も一定程度習得する機会を設けることで、現地で受けた説明内容の理解と、更なる興味関心につながるので、訪問先の先住民族に関する事前研修も設けることが望ましいと考える。
- (2) 今回訪問した台湾は、明治時代から戦前までの日本語教育の影響や、現在も日本文化への興味関心が高いこともあり、比較的日本語が通じやすい文化があった。短期間での中国語の習得は難しいと考えるものの、語学力の向上は必要と考えられた。

7 今後の展望

派遣先を問わず本交流事業を継続していくためには、次の取組を実施することが望ましいと考える。

- (1) 現地での体験等を次年度以降に引継ぎ、事前・事後研修におけるフォローアップを行うことで研修内容の深化を図る。
- (2) 各種国際交流事業で国外から本市に生徒が来訪する際には、本市における国際交流事業実施の際のリーダーとして、本事業の派遣者にも参加してもらう。

令和7年度登別市中学生台湾派遣交流事業を終えて

登別市総務部企画調整グループ 黒井 嵐史

令和7年度登別市中学生台湾派遣交流事業は、「アイヌの人々の誇りが尊重される社会を実現するための施策の推進に関する法律」、通称アイヌ新法が制定されたことを受け、本市が策定した「登別市アイヌ施策推進地域計画」に基づき、先住民文化の尊重や多文化共生の取組などを学習することを目的に実施しています。

台湾は、総人口の約97%を漢民族が占めており、原住民族は全体の約2.7%ほど、そのうち今回私たちが交流したタイヤル族は、総人口からみると約0.44%の方々が漢民族やタイヤル族のほか15の原住民族が、尊重し合い、違っていることを受入れ、相互に認め合う社会づくりについて、先進的な取組を行っていることで知られています。その実例を見ることで、本市における今後のアイヌ文化の尊重や、増加する外国籍の住民との共生社会づくりの参考にできると考え、訪問先として設定しました。

台湾を訪問先として選定してから実際に出発するまでの期間がわずか3ヶ月ほどしかなく、委託事業者と派遣生徒の決定、事前研修の実施など大変タイトなスケジュールでしたが、多くの皆様からのご協力のおかげで、無事に実施することができたことは大変嬉しい限りです。

実際に台湾では、原住民の文化を尊重するため、学校教育課程において、国語である台湾華語のほか、自らのルーツがあれば原住民族の言語を学ぶ機会が保証されています。また、社会でも1990年代頃は自らが原住民族出身であれば、田舎者だと思われるため隠すこともあったそうですが、現在は原住民族に対する意識が変わり、誰もが活躍できる共生社会づくりを目指していることがわかりました。

私自身を含め、参加した生徒たちには、この研修で学んだことを広く地域の皆様にもお知らせし、本市における共生社会づくりを中心になって進めて欲しいと期待しています。

登別市では現在、500名を超える外国人住民の方が居住しており、市の総人口から見ると1%以上が外国人住民となっています。多様性のある登別市を築いていくために、台湾で学んだことを存分に活かしていきたいと思います。

また、このような貴重な機会をいただき、快く送り出してくださった関係者の皆様に、改めて感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

Next Door

令和7年度登別市中学生台湾派遣交流事業

ツアー実施報告書

2025年2月28日

株式会社JTB 北海道事業部



事業の目的と概要

【事業目的】

令和7年度登別市中学生台湾派遣交流事業は、アイヌ政策推進交付金を活用し、本市の中学生と登別アイヌ協会の関係者を多文化共生社会の先進地である台湾へ派遣し、先住民の歴史や文化、取組についての理解を深めることにより、アイヌ文化の継承や多文化共生社会づくり等を担う人材を育成する。

【概要】

出発日 : 2026年 1月4日(日)～ 1月9日(金)5泊6日
参加人数: 中学生6名／引率2名／添乗員1名 合計9名
出発空港: 新千歳空港

【参加者】

生徒

塩崎	駿祐	さん
古本	仁	さん
三條	結花	さん
白崎	ひなた	さん
國京	心結	さん
源波	虹美	さん

引率

更科	亙輝	様
黒井	嵐史	様

ご旅程表

日次	月日(曜)	地名	現地時間	交通機関	行程	食事
1	1/4 (日)	新千歳空港 桃園空港	10:00 12:10 16:05 17:30 18:30 19:30 20:00	BR165 便 専用バス ↓	新千歳空港集合 新千歳空港発 1名黒井様 BR115 便 15:20 発~19:05 着 桃園空港着 入国手続き後、ガイドとミートし、台北市内へ 夕食レストラン ホテル着 ＜台北泊＞	朝：－ 昼：各自 夕：レストラン
2	1/5 (月)	台北 楽水 宜蘭	08:00 17:00 19:00	専用バス ↓	ホテル発 【 タイヤル族の集落「楽水部落」体験プログラム① 】 多文化共生事業・文化交流 10:00~16:00 (入場観光) 宜蘭 夕食レストラン ホテル到着 ＜宜蘭泊＞	朝：ホテル 昼：体験内 夕：レストラン
3	1/6 (火)	宜蘭 楽水 台北	 19:30	専用バス ↓	ホテル発 AM【 タイヤル族の集落「楽水部落」体験プログラム② 】 多文化共生事業・文化交流 (入場観光) PM 九份散策 (下車観光) 台北市内夕食 レストラン ホテル着 ＜台北泊＞	朝：民泊 昼：体験内又は 弁当 夕：レストラン
4	1/7 (水)	台北	08:00 19:30	専用バス ↓	ホテル発 AM【 学校交流 】 ※ <u>現地校生と学校で昼食</u> (入場観光) PM 士林夜市等 (下車観光) 台北市内 夕食レストラン ホテル着 ＜台北泊＞	朝：ホテル 昼：学校または レストラン 夕：レストラン
5	1/8 (木)	台北	10:15 12:00 13:00 15:40 17:00 18:30	公共交通機関	原住民文化主題公園 (入場観光) 昼食 故宮博物院 (入場観光) 忠烈祠 (入場観光) 台北市内 夕食レストラン ホテル着 ＜台北泊＞	朝：ホテル 昼：レストラン 夕：レストラン
6	1/9 (金)	桃園空港 新千歳空港	06:30 07:30 09:30 14:05	専用バス BR116 便	ホテル発 桃園空港着 桃園空港発 新千歳空港着、解散	朝：朝食BOX 昼：機内食 夕：－

＜時間帯目安＞

早朝	朝	午前	午後	夕刻	夜	深夜
4:00	6:00	8:00	12:00	16:00	18:00	23:00
						4:00

このご旅程は運輸機関のダイヤ改正及び各地の道路状況により多少時間の変更となる場合がございます。

【宿泊ホテル】

1・3～5日目

ドイツ ホテル (同一大飯店)

住所: 台北市中山区農安街36号 TEL: +886 2-2591-6811

生徒様 2名1室利用

2日目

煙波大飯店(レークショアホテル)

住所: 宜蘭市凱旋路135號 TEL: +886-3-9256899

生徒様 2名1室利用

【実施内容】

事前学習

パワーポイントを用いて台湾の概要説明。台湾はどこにあるかという投げかけから、地理的な場所、地形、気候、時差などの基本情報を学習。その後、宗教や歴史、民族について説明を行い、現地へ行く前の事前学習を行った。当日引率する添乗員の紹介と添乗員より現地情報をお伝えし、生徒様の質問に回答。台湾の生活に対してや日本と異なる点に疑問をもつこと、また深掘りしてなぜそのようになったのかという歴史的背景をインターネットや本を用いて学ぶ重要性を感じとっていただいた。現地での言葉については登別市のショウさまよりいくつか学んでいたようで、簡単な言葉は知っていた。

【投影・配布資料 一部抜粋】

新千歳空港→桃園空港→台北

行程

09:30 新千歳空港 到着
10:00 現地集合組と合流
12:10 BR165 出発
16:05 桃園AP 到着～16:58 出発
17:40 西門 TAKAO 火鍋～18:45
19:15 同一飯店 到着
チェックイン後 全員でコンビニへ



新千歳空港



夕食



夕食

10:00頃には全員集合し、皆さんでチェックインカウンターへ。年始のため混雑が予想されたが、優先的に案内していただきスムーズにチェックイン。定刻で飛行機は出発し、約4時間半のフライトを経て、定刻通りに桃園空港に到着。入国審査では他のお客様もおり、少々時間がかかりましたが、無事入国。その後税関検査を通り、ターミナルを出ると、現地スタッフと合流し夕食会場(火鍋)へ移動。その後予定通りホテル到着。登別市の黒井様のみ別便ではあったが、無事に合流。

【タイヤル族の集落「楽水部落」体験プログラム①】

多文化共生事業・文化交流

行程

07:00 朝食 地下1階レストラン
07:55 ホテル 出発
09:27 途中トイレ休憩
10:05 楽水部落 達給路農荘 到着

多文化共生事業・文化交流 〈タイヤル族体験プログラム#1〉

①衣装着付②門面体験③タイヤル語 自己紹介④タイヤル族 歌⑤タイヤル族 ダンス
⑥ムックリ の披露⑦竹筒ごはん作り体験⑧昼食⑨弓矢体験⑩お餅つき体験～試食
⑪タイヤル語 レッスン～質問コーナー ⑫竹筒ごはん～試食

15:58 楽水部落 出発
16:45 宜蘭 煙波大飯店 チェックイン
17:55 ホテル 出発
18:01 夕食 碧雲懷餐庁 地元料理～19:00
19:15 コンビニ立ち寄り
19:45 ホテル 到着



タイヤル族 口琴披露



竹筒作成



竹筒作成



竹筒ごはん作り体験



タイヤル族伝統料理



餅つき体験

【タイヤル族の集落「楽水部落」体験プログラム②】

多文化共生事業・文化交流

行程

07:00 朝食 1階レストラン

08:00 ホテル 出発

08:50 楽水部落 到着

多文化共生事業・文化交流 〈タイヤル族体験プログラム2〉

- ①葉染め体験②集落散策(車移動～小学校や教会、民家)
途中、楽水村村長合流 写真撮影③8号トンネルの歴史解説
- ④昼食～質問コーナー

12:55 楽水部落 出発

14:52 九份 到着～全員で散策、買い物

16:30 出発

17:35 夕食 金品茶樓 点心～18:20

18:40 同一飯店 到着

19:15 全員でスーパーマーケットへ(地下鉄利用)

21:15 帰着



タイヤル族 質問



村長合流



全体写真



葉染め体験



九份散策



夕食

【学校交流先】 台北市懷生国民中学校訪問

行程

- 07:30 朝食
- 08:32 ホテル 出発
- 08:50 学校交流 台北市懷生国民中学校
交流スケジュールは別紙
- 13:00 学校 出発
- 13:25 龍山寺 参拝、おみくじの作法～14:20
車窓 総統府
- 14:55 西門自由散策～16:27(土林の売店オープンに合わせて延長)
- 16:47 士林夜市～17:45
- 18:07 夕食 叙香園 湖南料理～19:05
- 19:30 ホテル 到着
- 19:45 ホテル周辺スーパー、コンビニ散策



台湾市懷生国民中学校



現地生徒さんと対面・ムックリ披露



1年生 英語授業



3年生 視覚芸術 授業



龍山寺

学校交流タイムスケジュール

臺北市懷生國中 114 學年度接待日本北海道登別市中學生

スケジュール：

活動名稱	時間	内容	備註
相見歡 お迎え・歓迎式 450人参加 英語 1日9時半から学習 ~9:50	0900-0908	校門口相見歡 お迎え・集合写真	校門口-大合照
	0908-0910	介紹雙方參與人員簡單に挨拶	移動至3F特色教室
	0910-0920	懷生國中校長致詞 懷生國中校長先生ご挨拶 懷生國中家長會致詞 懷生國中PTAご挨拶 登別市役所致詞 登別市代表者ご挨拶	演説士
	0920-0922	雙方致贈紀念品 両方紀念品交換	校長、家長會長、 登別市役所 演説士
	0922-0932	學校簡報懷生國中学校紹介(校長先生より・英語)	簡報
	0932-0940	日本北海道登別市學生表演 日本側パフォーマンス	登別市學生 全員ロケリ
	0940-1000	日本原住民文化介紹 日本側アイヌ文化についての紹介	登別市學生 全員ロケリ
	1000-1010	台灣原住民文化介紹 台灣側原住民紹介	本校學伴學生
	1010-1015	環境介紹・準備入班 環境紹介・入班準備	訓育組、學伴學生
	入班學習	1020-1105	705英文、801生活科學、904視藝 705英語(1年生) 801生活科学(2年生) 904視覚芸術(3年生)
	1115-1200	705數學、801本土語、904地理 705数学(1年生) 801台湾語(2年生) 904地理(3年生)	
午餐交流	1200-1230	原班用餐 入班ランチ	
綜合座談	1230-1300	心得分享、反饋感想發表(全員希望)	3F特色教室
賦歸	1300	お見送り	

學伴同學：705林芮帆、謝丞武、801關宇辰、薛琦琦、904平川令、江芯寧

【台北】 原住民文化主題・公園故宮博物院 等

行程

- 07:00 朝食
- 08:03 ホテル 出発/スケジュール外の行程
- 08:40 中正紀念堂
- 09:00 衛兵交代式～09:20
- 09:55 ホテル 到着 ガイド許さんと合流
- 10:07 ホテル 出発
- 10:45 順益原住民博物館 各自自由研修
- 1階 台湾の原住民の紹介 2階 生活と器具・家屋・土器 3階 服装と文化・籐細工・狩猟用具
- 12:10 出発～徒歩移動
- 12:40 昼食 故宮博物院 4階 三希堂
- 13:20 展示物 見学
- 14:50 フリータイム(買い物)
- 15:30 忠烈祠
- 15:50 衛兵交代式
- 16:35 花博公園
- 17:05 夕食 丸林 台湾料理
- 18:09 出発～徒歩移動
- 19:15 ホテル 到着



中正紀念堂



順益原住民博物館



故宮博物院



忠烈祠



夕食



夕食

桃園空港→新千歳空港→登別市

行程

06:20 ロビー集合
06:33 ホテル 出発
07:15 桃園AP 到着→チェックイン・荷物預け
07:45 搭乗口確認後フリー～08:45
09:00 BR116 搭乗
14:15 新千歳AP 到着～入国
16:00 駐車場Aより登別市へ出発



中正紀念堂



順益原住民博物館



故宮博物院



忠烈祠



夕食



夕食

参加後アンケート結果

参加者様(6名)にアンケートをご協力いただきました。

① アイヌ協会の実施した講座(全2回)について、内容は理解できましたか
(少し難解だった【2名】 / 少し理解できた【4名】)

② 事前研修の回数(全4回)について、回数は適切でしたか
(ちょうどよい【6名】)

③ 事前研修で、もっと力を入れて実施するべきだと思うことを記載してください

◆もっとアイヌについてわかりやすく知りたい

◆タイヤルの事も軽く教えて頂けたら、派遣先でタイヤルの方々に聞くことも用意出来た

④ 現地での体験で、心に残っているものを記載してください。また、理由も一緒に記載してください

◆中正記念堂に行ったことです。中正記念堂に行かないかと言われた時に推しと同じ名前なので提案された時点でとても興味が湧きました。その途中の駅の名前などに中正という字がたくさんあって高揚したのを覚えてます。派遣後も興味が湧いていたので調べたりもしたのでとても心に残っています。

◆タイヤル族の方との交流です。最初は緊張していたけれど明るく、楽しく私たちに接していただきとても楽しかったです。原住民の方と交流することが貴重な経験であり、さらに直接タイヤル族のことを詳しく学ばせていただき充実した2日間だったからです。

◆台湾の中学校訪問です。

台湾と日本の学校生活の違いについて学べて興味を持ったから。

◆竹製ご飯

今までにないご飯の作り方でたのしかった

◆タイヤル族との交流です

理由は食べもも美味しかったしがいどさんのせつめいも分かりやすかったからです

◆学校交流

自分と同じ年齢の人や環境に触れることで日本での普段の生活との違いがわかったから。

⑤ アイヌ民族の文化と、現地の先住民族等の文化を比べることはできましたか
(できた【2名】 / ややできた【3名】 / ややできなかった【1名】)

⑥ 日程は適切でしたか

(ちょうどよい【3名】 / やや短かった【1名】 / 短かった【1名】 / 長かった【1名】)

⑦ 派遣前と派遣後で、アイヌ民族に対するイメージが変わりましたか

(変わった【2名】 / やや変わった【2名】 / あまり変わらない【2名】)

⑧ 派遣前と派遣後で、海外の文化に対する関心は強まりましたか

(強くなった【5名】 / やや強くなった【1名】)

参加後アンケート結果

⑨ 派遣前と比べて、多文化共生に関する興味、関心は高まりましたか
(高まった【5名】／ やや高まった【1名】)

⑩ 先住民族(アイヌ民族含む)に関する興味、関心は高まりましたか
(高まった【4名】／ やや高まった【1名】 変わらなかった【1名】)

⑪ 今後も、多文化共生について学びたいですか
(学びたい【1名】／ 機会があれば学びたい【5名】)

⑫ 海外に対する不安や抵抗は残りましたか
(残っていない【4名】／ やや残った【2名】)

⑬ この事業の総合評価を教えてください
(とても満足【4名】／ やや満足【2名】)

⑭ 満足した方は、どのような点がよかったのか記載してください
残念だった方は、どこを改善したらよりよい事業になるか記載してください

◆最初から最後までとてもサポートしていただいて、とても安心し切って行動することが出来ました。アイヌ協会から人を呼んでいただいたり、旅行会社の方がきていただいたりなど、とても心強かやっただです。

◆さまざまな体験を自分たちで実際に行き、直接感じれる点が良かったです。

◆海外について実際に行って学ぶ機会があまりないから。

◆現地の学校が楽しかった

◆まず引率者さんが優しく安心してそして団員も優しくそして研修中も不満ない行程でとてもよかったから事後研修も学校終わりでちょうどいい時間だったから

◆様々な人と深く関わりながら研修をすることで、人との接し方だったり、相手を知ろうとすることの大切さがわかったから。

最後に、事業全体を通じての意見、感想を記載してください

◆事業自体はとても私のような海外が怖くて抵抗がある人も気軽に応募出来て良かったと思います。意見などはとくにありません。

本当にここ約2ヶ月間ありがとうございました。

◆初めての海外で怖い気持ちが大きくなるか不安でしたが、出会った人が暖かく接してくれたり、一緒に行ったみんなと楽しく過ごせて楽しい事業でした。機会があれば、海外にまた行ってみたいです。今回の事業に参加して良かったなと心から思いました。

◆実際に行って学ぶ機会があまりなくていい機会になりました。

◆現地の文化や教育を体験でき、もっと海外の興味を持ってた

◆相手を敬う気持ちや自分の気持ちを素直に表すことが大切なんだと、台湾の人々や研修仲間と関わって、知ることができた。

【全体を通して】

本事業の目的である「国籍や民族の異なる人々が互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築きながら、地域社会の構成員として共に生きていく多文化共生社会づくり」という観点から、今回の登別市の生徒様派遣は大きな意義があったと考える。特にタイヤル族との交流は、生徒様一人ひとりの成長や新たな学びにつながる貴重な機会となった。

また、事前学習によって生徒様のアイヌ文化に対する理解が深まり、そのうえで現地での民族交流や学校交流を行ったことで、本事業はアイヌ文化の継承にも寄与する取り組みとなった。

【担当者より】

生徒様全員が無事に大きな事故もなく帰国されましたこと、心より嬉しく思っております。お打合せの際にはご迷惑をおかけする場面もございましたが、黒井様をはじめ登別市様のご支援により、行程内容の検討から実施まで滞りなく進めることができました。誠にありがとうございます。

今後も旅行会社という枠にとどまらず、登別市様と連携を図りながら、アイヌ文化の継承や多文化共生社会づくりに貢献できるよう、生徒様の学びを支える取り組みを続けてまいりたいと存じます。

今年度は誠にありがとうございました。

次年度は、今年度の反省点を活かした内容をご提案させていただきますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

